



八ヶ岳

「南信署」八ヶ岳は、長野県と山梨県の県境南北約三〇キロメートルに峰を連ね、南は編笠岳、北は蓼科山を抱き、夏沢峠を境に北から蓼科山、北八ヶ岳、南八ヶ岳の三つのエリアに分けられ、全体は八ヶ岳連峰と呼ばれています。

八ヶ岳連峰の北に位置する蓼科山は（標高二、五三〇メートル）別名「信濃富士」「諏訪富士」とも呼ばれ円錐形の美しい山体をしています。

北八ヶ岳エリアは、天狗岳（二、六四六メートル）、縞枯山（二、四〇三メートル）、北横岳（二、四七三メートル）などの苔むした針葉樹林の黒い森や、大小様々な池が点在し神秘的なムードを醸し出しています。また、一〇〇人乗りのロープウェイがあり、夏は登山、冬はスキーと年間を通じて観光客が楽しめる場所となっております。

南八ヶ岳エリアは、八ヶ岳連峰の主峰である赤岳（二、八九九メートル）、百名山

の八ヶ岳とは赤岳のことを指しています。権現岳（二、七一五メートル）、硫黄岳（二、七六〇メートル）などが代表されるように、北八ヶ岳の神秘的なムードの山と違い荒々しい岩峰が連なり、本格的な登山コースが多く、稜線にはコマクサに代表される高山植物が多く生育しています。

八ヶ岳連峰には、八ヶ岳由縁の昔話があります。大昔富士山の女神の浅間（せんげん）さまと、八ヶ岳の男神の権現（ごんげん）さまが背くらべの話があり、「二つの山のでっぺんに、長い樋を渡し、水を流したらどんなものか。水は高いほうから、低いほうへ流れていくはずだ」ということで、木曾の阿弥陀如来さまは二つの山に樋を渡し、水は、富士山のほうへと流れていきました。大昔は、富士山よりも、八ヶ岳のほうが高かったのです。

八ヶ岳は得意になりましたが、気の強い富士の女神さまは、くやしくてなりません。思わず八ヶ岳の頭を、ごつんと、なぐってしまいました。すると、八ヶ岳の頭は八つにわれてしまいました。との民話がありますが、昔から「八」という数字は「たくさん」をあらわしており、「八百屋」「八百万の神」「うそ八百」などに代表されるとおり八ヶ岳もたくさん山々が連なっていることを表しているのかもしれない。

是非みなさんも、たくさん山がある八ヶ岳を登ってみてください。

◆アクセス

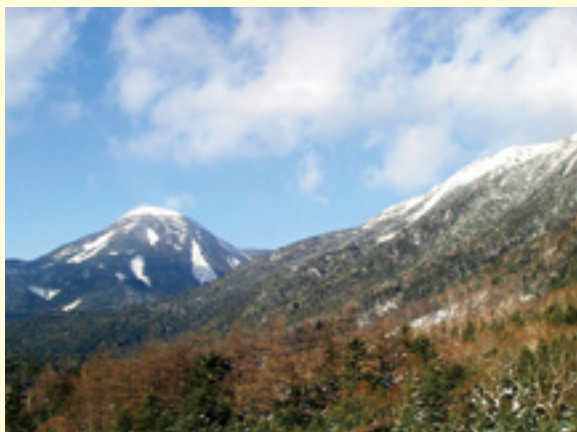
○公共交通機関を利用した場合
JR中央線茅野駅で下車し、いずれも駐車場まで約一時間
蓼科山は、大河原駐車場から徒歩約二時間一〇分



蓼科山から南八ヶ岳を望む



観光客でにぎわう北八ヶ岳の坪庭周辺



冬期の蓼科山（2,530メートル）



八ヶ岳の主峰 赤岳（2,899メートル）

北横岳は、ピラタス蓼科ロープウェイ駐車場からロープウェイで七分、徒歩一時間
赤岳は、桜平駐車場から徒歩六時間